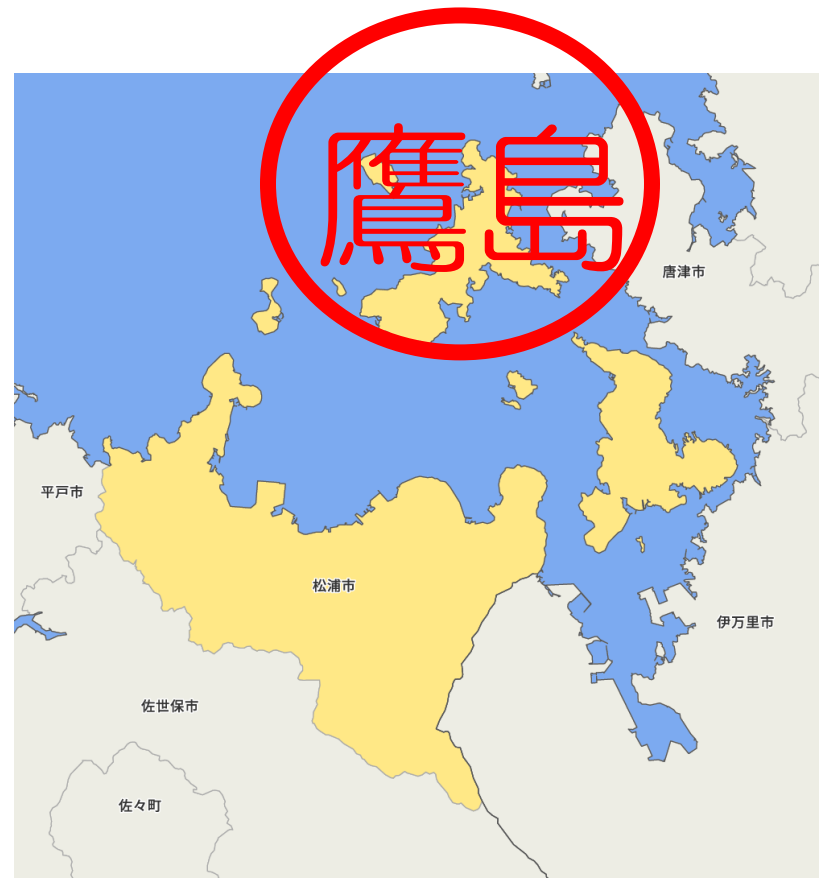


地域との協働による高等学校教育 改革推進事業（地域魅力化型）

「まっナビ・プロジェクト」
について



長崎県立松浦高等学校



最近の松浦の話題



トラックで輸送するためクレーンで引き揚げられた元寇船の木製いかり = 松浦市鷹島町 (長崎新聞)

松浦高校とは？



シン化

2

“シン化”する

“地域科学科(普通科)”と“商業科”

地域科学科 80名

主に進学を目指す学科

商業科 40名

主に就職を目指す学科

2つの学科で共通する学び



協働学習



タブレットPCを活用

- ・授業と個別学習による基礎学力の養成
- ・ICT(タブレット)を活用した「わかる」「できる」「身につく」学習
- ・「まっナビ・プロジェクト」による「地域に貢献できる力」の育成



令和4年度 松浦高校グランドデザイン

“シン化する”学舎 ～学びを“深”める 力を“伸”ばす “進”路実現を図る～

このような力を身に付けた生徒を育てます

○キャリア形成力

将来の目標を持ち、その実現に向けて主体的に努力を続ける人間

○責任言動力

社会の一員としての責任感を持ち、相手を思いやることなど、品性を備えた人間

○ふるさと貢献力

地域や社会の課題解決や発展に貢献しようという意欲を持つ人間

このような学びの充実を図ります

生徒が「主役」の活動

- 生徒会が中心となった行事の企画・運営
- ボランティア活動などの生徒の自発的な活動の充実

「責任ある言動」を伸ばす活動

- 生徒が「支え合い学び合う」学びの推進
- 各部活動で設定した「目標」に基づく活動

松高キャリアプランニング

- 「自分の将来」について考え、決断し、実践する
- 「ルーブリック」・「ポートフォリオ」等を活用した活動の振り返りとキャリアプランの作成
- 地元企業や大学と連携した探究活動

キャリアプランに応じた学び（不断の授業改善）

- 一人一人を大切に授業
- ICTの有効活用
- 授業と「まっナビ」との関連を深め、「課題分析・解決能力」等を伸ばす授業

まっナビ・プロジェクト

- 地域の未来を考察、発表、実践する探究学習
- 松浦市役所・大学等の学校外の組織等との協働

文科省研究指定

松浦市から様々な学びの支援を受けています

補習費・模擬試験費・検定費・航路通学費・部活動強化費・まっナビ支援等

生徒一人一人の進路実現を図ります

○地域科学科・普通科
国公立大学・私立大学
各種専門学校

○商業科
国公立大学・私立大学（商業科枠）
各種専門学校、市内外の優良企業



開科式（4月8日）

松浦高校とは？

3年間の授業

《地域科学科》

| | | | | | | | | | | | |
|-------|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|-------------|-------------------|
| 1年 | 国語 | 歴史 | 地理 | 数学 | 理科 | 保・体 | 芸術 | 家庭 | 英語 | L H R | 総合的な探究の時間 まっナビ |
| 2年(理) | 国語 | 地理 | 公民 | 数学 | 理科 | 保・体 | 英語 | 情報 | | | |
| (文) | 国語 | 歴史 | 公民 | 数学 | 理科 | 保・体 | 英語 | 情報 | | | |
| 3年(理) | 国語 | 地理 | 数学 | 理科 | 体育 | 英語 | | | | | |
| (文) | 国語 | 歴史 | 公民 | 数学 | 理科 | 体育 | 英語 | | | | |

《商業科》

| | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|-----|----|--------|----|--------|-------------|-------------------|
| 1年 | 国語 | 歴史 | 数学 | 理科 | 保・体 | 芸術 | 家庭 | 英語 | 商業専門科目 | L H R | 総合的な探究の時間 まっナビ |
| 2年 | 国語 | 公民 | 数学 | 理科 | 保・体 | 英語 | 商業専門科目 | | | | |
| 3年 | 国語 | 地理 | 公民 | 数学 | 体育 | 英語 | 商業専門科目 | | | | |

松浦高校の学校改革の動き

| | |
|-----|---|
| H25 | <ul style="list-style-type: none">●生徒数の減少により普通科が1学年4学級（定員160名）から3学級（定員120名）となる●松浦市による就学支援制度開始 |
| H26 | <ul style="list-style-type: none">●商業科を新設し、普通科2学級・商業科1学級となる（定員120名） |
| H29 | <ul style="list-style-type: none">●地域課題解決学習 「まつナビ」 スタート |
| R 2 | <ul style="list-style-type: none">●文科省 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」研究指定（～R 4年度） |
| R 4 | <ul style="list-style-type: none">●普通科を地域科学科に改編 |

ビジュアル資料

文科省委託 令和4年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

長崎県立松浦高等学校

研究開発構想名：**松浦高校「まつナビ・プロジェクト」**

～「プレまつナビ」・「まつナビ」・「ポストまつナビ」を通しての、3年間の地域課題解決型学習と自らのキャリアデザインの構築～

構想の目的

育成する力

コミュニケーション力

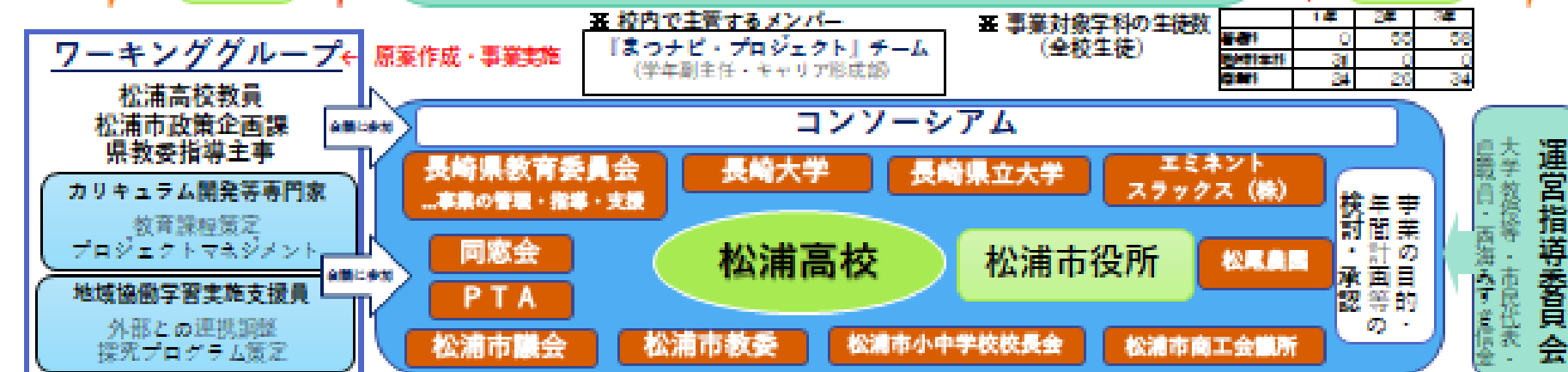
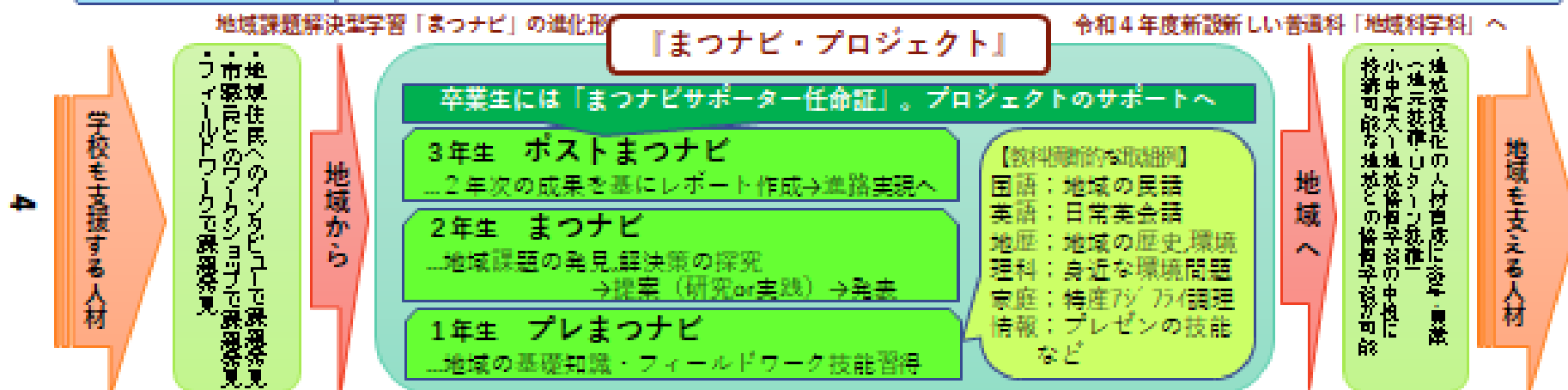
課題発見力・テーマ設定力

論理的思考力

自ら答えを見出す「深い学び」を実現！

...

カリキュラム開発



本日の発表内容

1. **P** まつナビ・プロジェクトとは
2. **D** 松高の実践～構想と実践、成果と課題～
3. **C** 検証～研究開発単位Ⅰ、Ⅱを踏まえて～
4. **A** これからのまつナビ・プロジェクト

1. P まつナビ・プロジェクトとは

課題解決型学習「まつナビ」に、令和2年度から、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、生徒の課題解決能力を高めることを目指した取組

〔目的〕

- 地域を愛し大切に作る姿勢の育成
- 課題解決能力を高める

〔仮説〕

「まつナビ」で培った課題研究の
カリキュラムと生徒支援の在り方
を、より充実させることができれ
ば、この目的を達成することがで
きるだろう

充実を図る方向性として考えら
れることは次の2項目である



〔仮説〕

① 高校 2 年生のみの取組

⇒ 1～3 年生の 3 年間の取組へ

② 松浦市のみによる支援

⇒ 地域の多くの方々による組織的な
支援体制の構築へ

①・②を計画的、継続的に実施・検証

・改善⇒目的の達成できるのでは？

研究開発単位 I

高校3年間を通して地域課題解決
型学習を充実させるカリキュラム
の開発

研究開発単位 I

- 学校設定科目による学び
- MNPとリンクする授業実践
（教科横断・ヨコのつながり）
- 小中学校及び大学等との連続性
のある学び（タテのつながり）

研究開発単位Ⅱ

地域課題解決学習を組織的に支援
する体制づくり

研究開発単位Ⅱ

- コンソーシアムとの協働
- カリキュラム等開発専門家による助言等（大学との連携）
- 地域協働学習実施支援員による支援等（コーディネーター）

2. □ 松高の実践

学校設定科目
「まつナビ・プロジェクト」

～構想と実践、成果と課題～

まつナビ・プロジェクト

プレまつナビ
(1年)

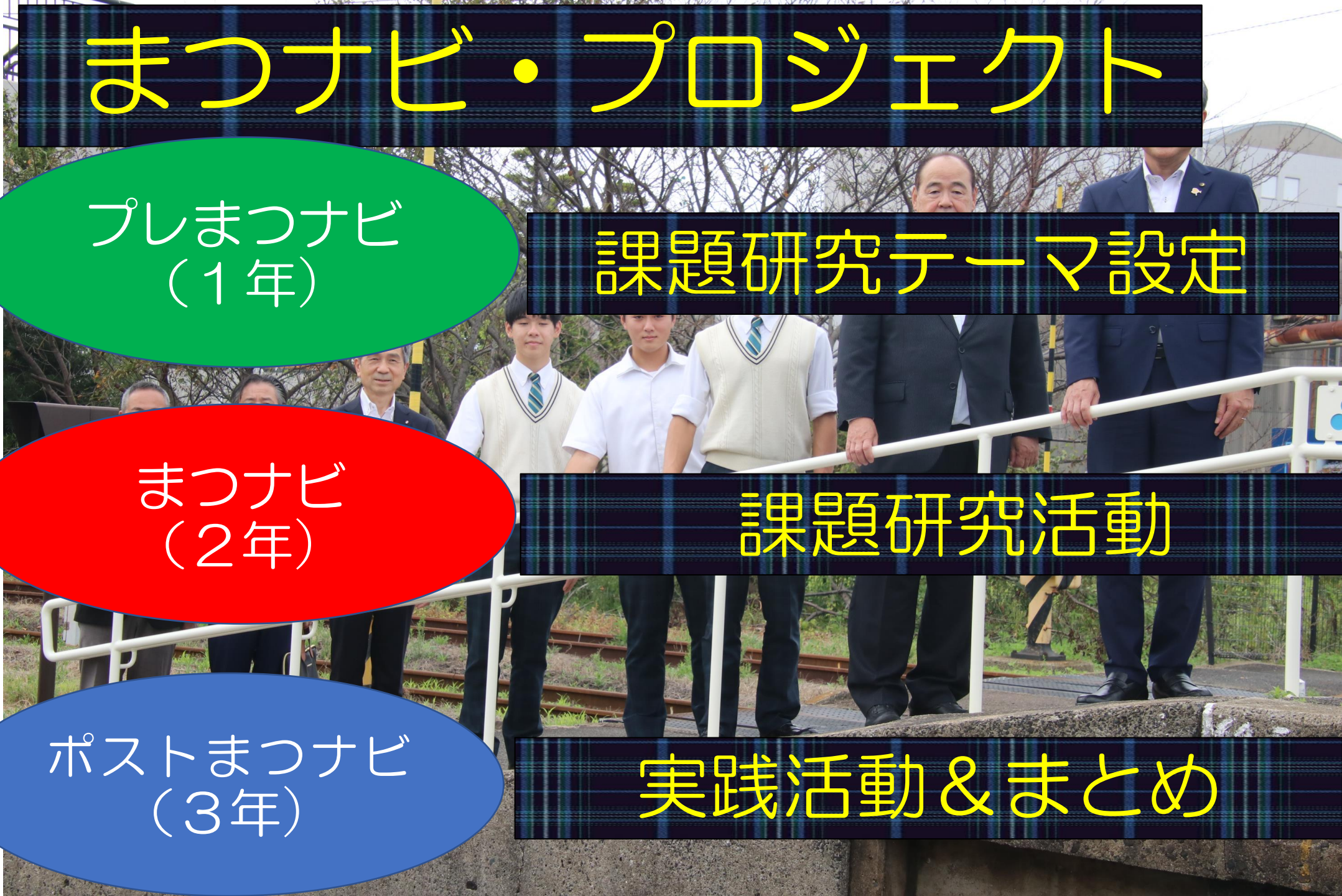
課題研究テーマ設定

まつナビ
(2年)

課題研究活動

ポストまつナビ
(3年)

実践活動&まとめ



プレまつナビ（1年生）の取組

- ①教科横断型と地域連携の授業づくり
- ②課題研究活動に必要な知識・
技能習得
- ③課題研究テーマ設定

①教科横断型の授業づくり



地理と数学

エラトステネス
になって地球の
大きさを測ろう

国語と英語

漢文と英語の
使役動詞の役
目は同じだ

①地域連携の授業づくり

(例) 歴史総合特別授業

流鏝馬見学

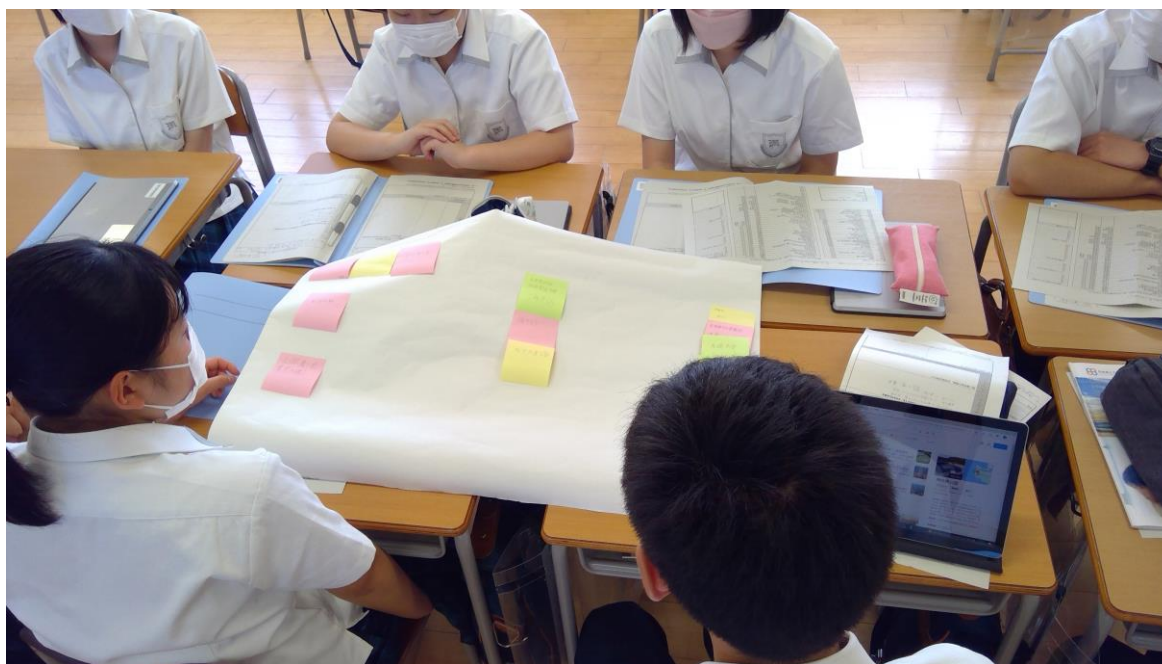
鷹島海底遺跡



②課題研究活動に必要な知識・技能習得

外部講師による探究講演

グループ探究活動



探究の手法や必要なマインドセットを身に付ける

②課題研究活動の基本的な知識・ 技能習得（バスツアー）

R2、R3まで 陸・水・街・島の4コース



R4は

A：地域貢献・地域活性化コース

B：人口・環境問題コース

C：産業コース

D：歴史・国際・文化コース

②課題研究活動に必要な知識・ 技能習得（志佐んぽ）



テーマ設定力やコミュニケーション力等を身に付ける

バスツアー（7月21日）

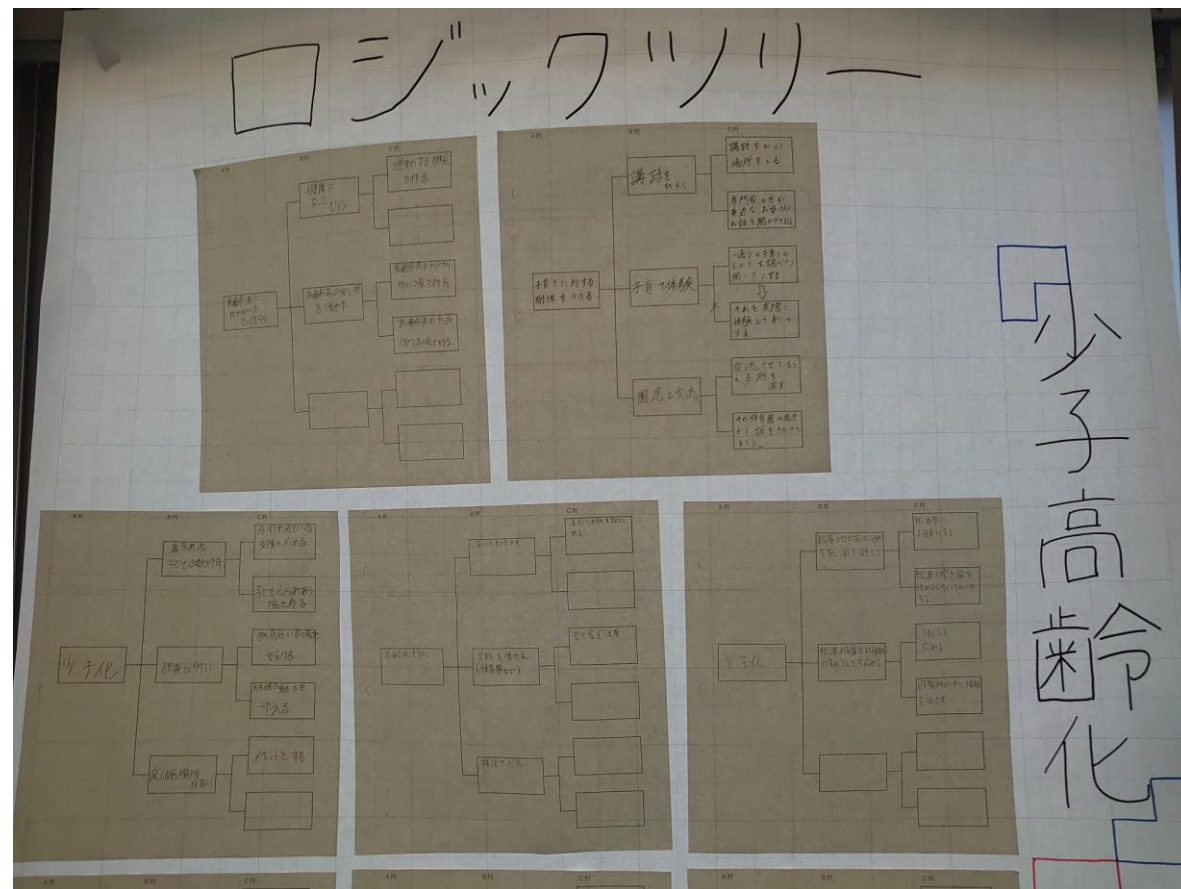
| 班 | コース | ルート | 着 | 発 | 内容 | テーマ 設定力 | 課題発 見力 | コミュ ニケー ション 力 |
|---|---------------------------|----------------|-------|-------|-----------------------------|------------|-----------|------------------------|
| A | 地域貢 献・地域 活性化 コース | 松浦高校 | — | 9:00 | | | | |
| | | ① 大山公園 | 10:00 | 10:30 | イロハ島見学・質疑応答（インタビュー調査） | ○ | ○ | |
| | | ② イロハ島花と冒険の島公園 | 11:00 | 14:15 | イロハ島見学・質疑応答（インタビュー調査） | ○ | ○ | ○ |
| | | ③ 伊萬里百貨店 | 14:45 | 15:30 | 百貨店社長へインタビュー調査 | ○ | ○ | ○ |
| | | 松浦高校 | 16:00 | — | | | | |
| B | 人口・環 境問題 コース | 松浦高校 | — | 9:00 | | | | |
| | | ① 県立大 | 9:40 | 11:20 | 地域課題の現状とその対策に関する講和・ディスカッション | ○ | ○ | ○ |
| | | ② 海きらら | 11:30 | 14:00 | 海洋生物を取り巻く環境の学習 | ○ | ○ | |
| | | ③ 星きらり | 14:20 | 14:40 | 太陽が地球に与える影響の学習 | ○ | ○ | |
| | | 松浦高校 | 15:30 | — | | | | |
| C | 産業コ ース | 松浦高校 | — | 9:00 | | | | |
| | | ① エミネントスラックス | 9:05 | 10:15 | 工場見学・質疑応答 | ○ | ○ | ○ |
| | | ② 平戸市役所 | 10:45 | 11:15 | 観光客誘致についての工夫について・質疑応答 | ○ | ○ | ○ |
| | | ③ 平戸大橋公園 | 11:25 | 12:00 | 昼食休憩 | | | ○ |
| | | ④ ツナファーム | 13:15 | 14:10 | 工場見学・質疑応答 | ○ | ○ | ○ |
| | | ⑤ エンマキ | 15:00 | 15:50 | 工場見学・質疑応答 | ○ | ○ | ○ |
| | | 松浦高校 | 16:00 | — | | | | |
| D | 歴史・国 際・文化 コース | 松浦高校 | — | 9:00 | | | | |
| | | ① 鷹島 住吉神社 | 10:00 | 11:30 | 神社見学・質疑応答 | ○ | ○ | ○ |
| | | ② 文化財センター | 11:30 | 12:00 | 文化財の説明 | ○ | ○ | ○ |
| | | ③ 今福 今福神社 | 13:00 | 13:30 | 神社見学 | ○ | ○ | |
| | | ④ 星鹿 姫神社 | 13:30 | 14:00 | 神社見学 | ○ | ○ | |
| | | ⑤ 志佐 淀姫神社 | 14:20 | 15:50 | 神社見学 | ○ | ○ | |
| | | 松浦高校 | 16:00 | — | | | | |

学習報告会（9月14日）



コミュニケーション力・論理的思考力等を身に付ける

③課題研究テーマ設定



課題発見力・テーマ設定力等を身につける

押しまつナビの成果

- ①教科横断型と地域連携授業の充実
- ②課題研究活動に必要な知識・技能
習得のための豊富なインプット
- ③自分ごととしたテーマ設定を通じて
キャリア形成とのつながりを強める
ことができた

まっナビ（2年生）の取組

- ①課題研究構想発表
- ②フィールドワーク
- ③中間・校内発表
- ④実践活動（例）
- ⑤課題研究活動の評価

①課題研究構想発表（5月25日）



②フィールドワーク（7月21日）

| | | | | |
|--|-----------|----|--|-----|
| 1班 | | | | 8名 |
| 松浦高校（8：10）→松浦駅（8：18）→島瀬町（9：23）→四ヶ町でインタビュー（9：40～11:00）→昼休憩（11:00～13:00）→四ヶ町でインタビュー（13:05～14:10）→島瀬町（14:15）→松浦駅前（15:21） | | | | |
| 交通手段 | バス貸し切り | 引率 | | |
| 2班 | | | | 10名 |
| 松浦高校（8:30）→松浦駅（8:45）〈9:20発〉→調川駅（9:23）→魚市場食堂（9:40）→調川駅（10:10）〈10:21発〉→今福駅（10:32）→きらく（10:45）→今福駅（11:20）〈12:03〉→調川駅（12:15） | | | | |
| 交通手段 | MR | 引率 | | |
| 3班 | | | | 9名 |
| 松浦高校（8：30）→松浦駅（9：20）→福島口（9：37）→浦ノ崎港（9：45）→福島港（10：00）→福島支所（10：20）→福島歴史民俗資料館（11：00）→バス停（11：50） | | | | |
| 交通手段 | MR・バス | 引率 | | |
| 4A班 | | | | 5名 |
| 松浦高校（8：30）→松浦駅（8：40）→佐世保駅（11：07）→ハウステンボス駅（11：30）→ハウステンボス駅（13：36）→佐世保駅（14：23）→松浦駅（16：14）→松浦高校（16：23） ※佐世保駅からハウステンボス駅まではJR | | | | |
| 交通手段 | 貸し切りバス・JR | 引率 | | |
| 4B班 | | | | 7名 |
| 松浦駅（8：18）→島瀬町（9：23）→四ヶ町（9：30）→（10：30）→五番街（10：45）→（11：45）→昼食（12：00）→（1：00）→佐世保駅（1：00）→（2：00）→島瀬（15：14）→（16：24） | | | | |
| 交通手段 | 貸し切りバス | 引率 | | |
| 5A班 | | | | 3名 |
| 松浦駅（9：21）→御厨駅（9：30）滝尾川楽園・大崎海水浴場・→松浦駅（13:12）→志佐〈徒歩〉松尾農園・変竹林・アミスタホテル・松浦シティホテル・あじ彩→ | | | | |
| 交通手段 | MR | 引率 | | |
| 5A班 | | | | 2名 |
| 松浦駅（9：20）→福島口（9：37）→福島港（10：25）福島を歩く 島港（14：05）→福島口（14：59）→調川駅（15：12） 魚市場 調川駅（16：40）→松浦駅（16：43着）→松浦高校到着 | | | | |
| 交通手段 | MR | 引率 | | |
| 5A班 | | | | 3名 |
| 松浦高校出発→〈交通機関〉松浦駅（9：20）→鷹島口（9：30）→今福港（10：00）→殿ノ浦（10：25）→〈タクシー〉道の駅鷹ら島→〈交通機関〉殿ノ浦港（12：30）→今福港（12：55） | | | | |
| 交通手段 | 自家用車 | 引率 | | |

③中間発表会（9月28日）



③校内発表会（12月14日）

| 班 | プロジェクト名 | 内容 |
|-----|-------------------------|----------------------|
| 1班 | あなたは何しに松浦へ？ | 松浦市を訪れる観光客へのパンフレット作成 |
| 2班 | お気に入りのスポットを紹介しよう | 松浦市内のいくつかのお店でスタンプラリー |
| 3班 | 現在の松浦のお土産事情とこれからの活動について | 新しいお土産の提案（お菓子） |
| 4班A | ゲームを通して松浦の魅力を伝える | 各種イベントにゲームを持ち込む |
| 4班B | 究極の松濃（まつこう）ダレ | アジフライに合う究極のソース作り |
| 5班 | QRコードで手軽なマップ作成 | QRコードで手軽な店舗マップ作成 |

③校内発表会（12月14日）

| 班 | プロジェクト名 | 内容 |
|------|------------------------|----------------------|
| 6班 | 松高生と地元のお店でお菓子の共同開発 | 「まるぼうろ」にチョコレートコーティング |
| 7班 | タルタルプロジェクト | アジフライに合うタルタルソース作り |
| 8班 | サスティナブル×松浦 | 廃油を利用して石鹸を作成 |
| 9班 | 私松わ、いつまでも松わ 松浦キッチンカー祭り | 松浦市にキッチンカーを読んでイベント開催 |
| 10班A | 松浦を知ってもらおう | 松高生による松浦高校ツイッター |
| 10班B | マツドリー焼きの販売について | 松浦高校特製のマツドリー焼き販売 |

④実践活動（例）



地元お菓子屋さん
とのコラボ商品



校内で回収した廃油を再利用して、
カフェを運営（松浦こども博）



将来的に廃油から石鹼を作成して販売

⑤課題研究活動の評価

⇒ 学校設定科目の学習到達度を、生徒が自己評価しながら試行錯誤を重ね、研究活動を進める

ループリック評価規準（例）

| 育成を図る資質能力 | テーマ設定力 | 課題発見力 | 論理的思考力 | コミュニケーション力（傾聴・対話・発信） |
|-----------|---|---|---|---|
| 評価基準 | ①現状分析がしっかりできているか | ②フィールドワークの効果が見られるか | ③今後の展望（提言・実践）が明確か | ④パワーポイントに見やすさ等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か |
| 評価の観点 | 思考力・判断力・表現力等（メタ認知的活動1：省察・評価） | 学びに向かう力・人間性等（レジリエンス能力） | 論理的思考力・判断力・表現力等（メタ認知的活動3：「遂行・省察」部分） | 知識・技能（プレゼンテーション技術）・思考力・判断力・表現力等（リーダーシップ・対話力・協調性などの社会的能力） |
| 段階（規準） | | | | |
| 1 | 現状を語るができている。 | フィールドワークの内容について話すことができている。 | 活動で得たデータをもとに、成果と課題を表明することができる。 | パワーポイントのスライドを、規定に沿ってつくり、発表することができる。 |
| 2 | 現状とそこに至るまでのプロセスを断片的に語るができている。 | フィールドワークの内容とその成果について話すことができている。 | 活動で得たデータを根拠に探究課題を整理・分析し、成果と課題を表明することができる。 | 文字の大きさや色などを変えて「見やすさ」に工夫を加えることができ、時間内に発表することができる。 |
| 3 | 現状と、そこに至るまでのプロセスを、一連のストーリーとして語るができている。 | フィールドワークの内容とその成果および課題について話すことができている。 | 自分たちの活動で得たデータ以外の資料等にある、多様な情報から収集したことも含めつつ、それらを根拠として探究課題とその遂行過程を整理・分析し、成果と課題を説明することができる。 | 図や表なども使った視覚的な工夫を加えたパワーポイントスライドを作成でき、時間内に、かつ原稿を見ずに発表することができる。 |
| 4 | 現状と、そこに至るまでのプロセスを一連のストーリーとして語るができるとともに、その過程がどこにあるのかに思いを及ぼすことができる。 | フィールドワーク前に基づいて、その過程について整理し話すことができる。 | 自分たちの活動で得たデータ以外の資料等にある、信ぴょう性をもった多様な情報から収集したことも含めつつ、それらを根拠として探究課題とその遂行過程を整理・分析し、道筋を立てて成果と課題を説明することができる。 | パワーポイントのスライドに加え、話し方にも工夫を加えて、聴衆を引っ掛けようとする見ながら発表することができる。 |
| 5 | 達成目標を前提に、現状までのプロセスを言語化・可視化し、到達している点もしくは追加検証を加える必要がある点とを明確にできている。 | フィールドワークに基づいたデータ検証や、現地を直視した課題に向かい合う姿勢が明確に表明できている。 | 自分たちの活動で得たデータ以外の資料等にある、信ぴょう性をもった多様な情報から収集したことも含めつつ、それらを根拠として探究課題とその遂行過程を整理・分析し、道筋を立てて成果と課題を表明するとともに、自分たちのよびこむ周囲が持続可能な形で参加できるようにするための手だてを表明することができる。 | 視覚的・聴覚的・身体的な工夫を加えたパワーポイントと、発表の発言内容との役割を明確にし、聴衆である生徒に対し対話を促しながら相互に考え、説得力を持った発表を時間内で行うことができる。 |

各種発表会前（1か月前）に配布して、生徒は毎週の活動後に到達度を自己評価する

課題研究発表会（ご案内）

令和5年1月18日（水）開催

13：00～松浦市文化会館

1月19日以降動画配信（期間限定）

このQRコードで
お申込みください⇒



まっナビの成果

- ルーブリック評価規準による生徒の自己評価システムの確立
- 課題研究発表会において、単なる提言にとどまらない実践活動報告を行う、プロジェクトの増加

ポストまつナビ（3年生）の取組

①研究論文作成

②校内発表における提案事項の
校外実践

①研究論文作成

まつナビ・プロジェクト「まつナビ」 第6班「わくわくどきどき“みらいごっこ”」

子どもに必要なことについて

長崎県立松浦高等学校

1. 研究背景

市役所の子育て子ども課の方から聞いたお話の中で、松浦市は子どもが参加できるイベントはあるが、地域によって差があり、少し離れた町になると、イベント会場まで簡単に来ることができず参加することが難しくなるという話がありました。そこで、普段イベントなどに簡単に来ることができない少し離れた地域に住んでいる子どもたちと一緒にイベントを開催することに決めました。これによってイベントに来てくれた子どもたちと交流し子どもたちの輪を広げることができる、住んでいる地域の魅力などを知ってもらえると考えました。そして、このイベントを通して松浦の良さを再発見してもらい、将来、地元松浦に戻ってきたいと思ってもらえるようにしようと考えました。

2. 研究の目的と意義

〈イベントを開催することの目的〉

- ① 離れた地域に住んでいる子どもたちがほかの地域の子どもたちと交流する機会を作ること。
- ② イベントに参加して松浦市の各地域について知ってもらうこと。
- ③ このイベントを通してわくわくどきどきを体験してもらい、子どもたちの日常を色鮮やかなものにする。

〈イベントを開催することの意義〉

このイベントが松浦市の恒例行事になりイベントに参加してくれた子どもたちが大きくなって結婚し子どもが生まれたときに自分がこのイベントで味わったことを思い出し、「やっぱり松浦っていい!」「松浦で子育てしたい!」と思ってくれる

→子育てしに松浦に戻ってきてくれる

3. 研究方法

○フィールドワーク

- ・海きららに行き、子どもイベントを開催するにあたっての注意点を聞いた。
- ・街頭(海きらら駐車場)インタビューでは、何があったらイベントに行きたいと思うか、小学生の間で流行しているものを質問した。
- ・福島養源小学校に行ってイベントについての説明会を開いた。小学校の先生方と直接お話をし、福島町の現状や不足しているもの、したいこと、イベントに対する思いを聞いた。
- ・福島養源小学校 5,6年生に福島について、福島養源小学校についてのアンケートを行った。

4. 結果・考察

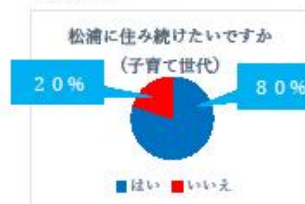
松浦に住みたいですかというアンケートを実施したところ、10代では都会のほうが楽しそう、大学がないからなどの意見があり、10%が「はい」90%が「いいえ」という結果になりました。(資料1)

ですが、子育て世代に聞いたところ、10代とは全く異なり「はい」が80%「いいえ」が20%と、「はい」と答える人が多くなっています。「はい」と答えた人の理由として、子育て支援が豊富で、人が優しく、自然が豊かで暮らしやすいという声が多くありました。(資料2)

【資料1】



【資料2】



しかし、小学生に松浦市の魅力や自分の町のことを聞いてみると「あれいいよ!これいいよ!」とたくさん意見が出てきました。イベントは開催の準備をしていたのにもかかわらず、新型コロナウイルスの影響で断念せざるを得ず開催できませんでした。それでも、松浦には大学がないためいった

ん外に出ていくのはしょうがないが、大きくなって結婚し子どもが生まれたときに、子ども時代に味わったわくわくどきどきを思い出し松浦に戻りたいと思ってもらえるようなイベントを考えることができたと思います。(資料3)

【資料3】

イベントのポスター



5. 結論・今後の展望

今は、コロナ禍ということで、少しイベントを開催するのは難しいと思うけれど、実際に開催するという準備はできていたので、できたら開催したい。子どもたちがただ楽しめるだけでなく、工夫して思い出に残るものであったり、「遊ぶ」だけでなく「学ぶ」ということまで取り入れられた、イベントや交流会を開催して子どものころに自分のふるさとの良さを見つけて後世に伝え残していくこと、イベントを開催して実際の感想を聞いてみたい。さらに、私は小学校の教員になるという目標があり、実際に今回小学生とかかわることができ、とても良い経験となりました。この活動を通して、子どもが生き生きと楽しく、わくわくするようなことを考え、形式にとらわれずたくさん冒険してみると新たな一面の発見が広がることを知りました。これからも、概念にとらわれず自分から様々なことを発信できる教員を目指したいです。

②校内発表における提案事項の校外実践



9月21日設置



10月6日引渡式

ポストまっナビの成果

- これまでの活動を振り返り、
大学入試等キャリア形成につながる**個人研究**の論文作成ができた。
- 提案にとどまらない**実践活動**の
充実

2. □ 松高の実践

地域課題解決学習を組織的に
支援する体制づくり

～構想と実践、成果と課題～

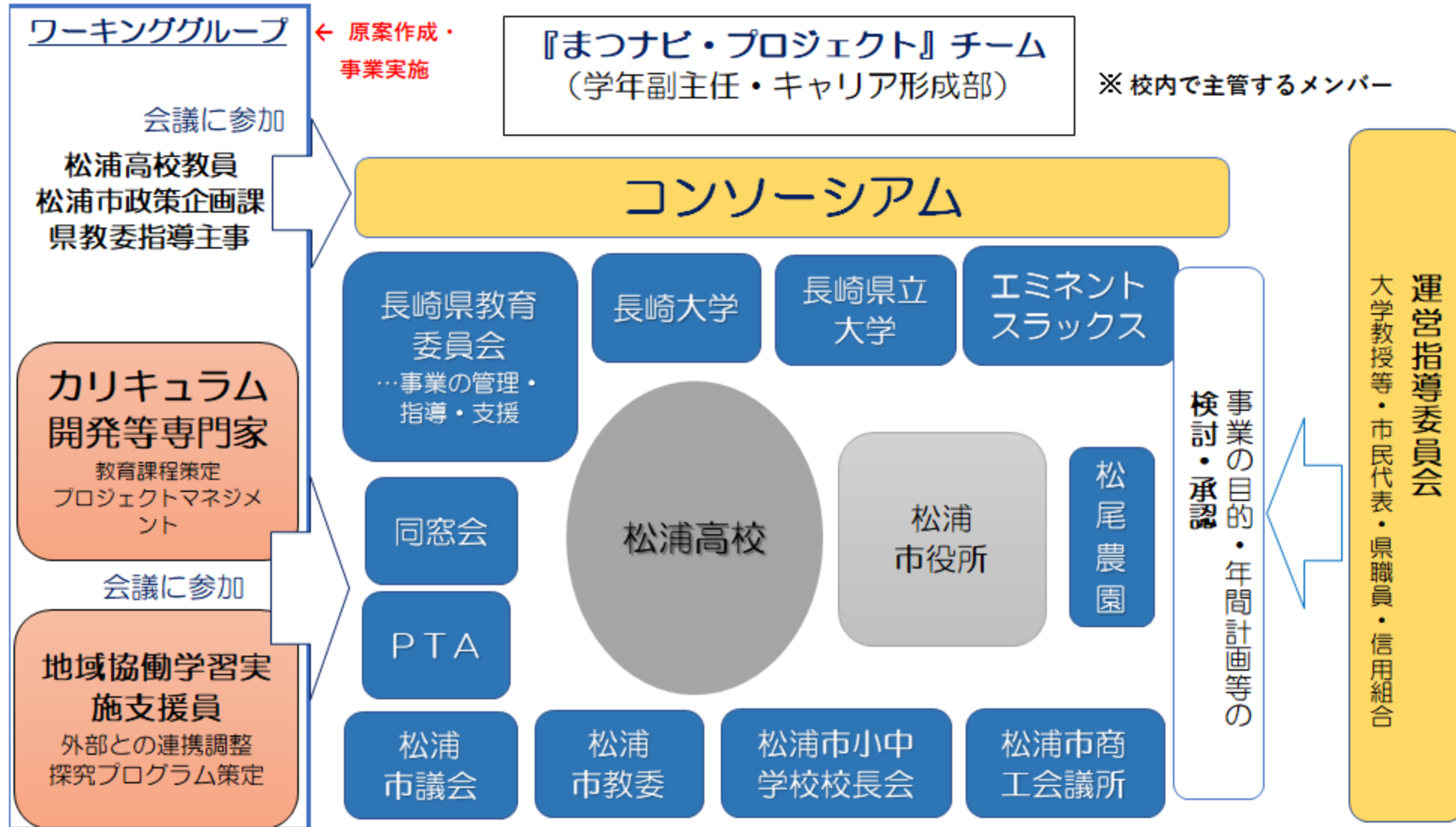
地域課題解決学習を組織的に支援する体制

- コンソーシアム
- 運営指導委員会
- カリキュラム開発等専門家
- 地域協働学習実施支援員



コンソーシアム会議（7月実施）

地域課題解決学習を組織的に支援する体制



コーディネーターの役割

①生徒・学校・地域のより簡便なマッチング体制の構築

②発表会サポート及びフィールドワーク等の教職員との打合せ

③毎週水曜日の校内プロジェクトチーム会議の参加

④生徒の探究活動サポート

| 月 | コーディネート等 |
|-----|-------------------------------------|
| 4月 | ・校内プロジェクトチーム会議 調整（毎週水曜日参加） |
| | ・課題研究発表会の日程調整 |
| 5月 | ・2年生課題研究構想発表会サポート |
| 6月 | ・1年生バスツアー関連事業所の連絡・調整 |
| | ・2年生フィールドワークに関する希望等について生徒からの聞き取り、準備 |
| 7月 | ・外部講師による2年生フィールドワーク研修会準備 |
| | ・第1回コンソーシアム会議（連携の在り方について確認） |
| | ・教職員とのフィールドワーク打合せ |
| | ・教職員とのバスツアー打合せ |
| 9月 | ・バスツアー参加 |
| | ・2学期の活動計画 確認・調整 |
| | ・外部との連携打合せ |
| | ・1年生学習報告会サポート |
| 10月 | ・2年生中間発表サポート |
| | ・2回目のフィールドワーク調整 |
| 11月 | ・実践活動松浦駅への「手すり」設置参加 |
| | ・校内発表準備サポート |
| 12月 | ・校内発表準備 |
| | ・校内発表振り返り（教職員）調整 |
| | ・3学期の活動計画確認・調整 |
| 1月 | ・課題研究発表会サポート |
| 2月 | ・第2回コンソーシアム会議参加 |
| 3月 | ・1年生のテーマ設定サポート |

学校内の体制及び学校外体制 (コンソーシアム) 構築における成果

コンソーシアム構成員との協働に
よる実践活動

学校内の体制及び学校外体制 (コンソーシアム) 構築における課題

学校（生徒）と地域との協働活動
におけるマッチング体制の構築

コーディネーターについての成果

年間計画を踏まえた、生徒の課題
研究活動の円滑なコーディネート

コーディネーターについての課題

- コーディネーターが主体的に地域のリソースを知る（開拓する）こと
- 大学等も視野に入れた、広範囲の活動におけるコーディネート力
- 地域協働を進めるための事業所等との円滑なマッチングの促進

3. C 検証

～研究開発単位 I、II を踏まえて～

令和2～4年（3か年）の成果（まとめ）

- コンソーシアム構成員との協働による
実践活動の充実
- 病院や大学の研究者、気象台などによる
地域連携による授業の実施
- ルーブリック評価規準を使った生徒による自己評価
システムの確立
- 教科横断型の授業の実施
- ICT授業を視野に入れた公開授業の実施

令和2～4年（3か年）の課題（まとめ）

- 過年度研究に頼らない、新しく斬新な課題研究
テーマ設定
- キャリア形成（大学入試等）につながる課題研究
テーマ設定
- 見通しをもった高校生らしい研究活動
- 松浦市だけでない、近隣都市なども視野に入れた
課題研究活動
- 提言だけにとどまらない実践活動
- 地域科学科のアピールと説明
- 学校（生徒）と地域との協働活動における
マッチング体制の構築

4. A これからのまつナビ・
プロジェクト
(今後の展望)

①学校設定科目（1・2年）及び
総合的な探究の時間（1～3年）
を使った研究活動

【キャリアプランニング】医療系進学希望者対象講演会

6月16日（木）と17日（金）に松浦高校コモンホールにて、松浦中央病院との連携事業として、医療系進学希望者対象講演会を行いました。具体的には、医療に関する理解を深めることで、医療職への志望をより強固なものにし、地域医療に関する探究活動を入試に活用し、進路希望の実現を図ることを目的としています。

2日間に渡り、とてもわかりやすい御講演をありがとうございました。



【まつナビ日誌】第1回まつナビ Study Café を行いました。

2年生は6月22日(木)6、7時間目に、長崎大学教育学部の学生さんとオンラインにて、交流会を行いました。大学生と話をしてみたい生徒が小人数で順番に話をするという形式で行いました。

また、課題解決型学習まつナビの相談だけではなく、「大学生は一日をどのように過ごしているのか」「長崎は家賃が本当に高いのか」「部活動で中心となって引っ張っていくときに注意すること」など、2年生が中心となり、松浦高校卒業生の[]さんら大学生にたくさんの質問を行っていました。この活動は今後も継続的に実施していきます。



- ⇒ 「学び」をより**具体化**、**実践化**
- ⇒ **計画的**な研究時間の確保
- ⇒ 研究テーマ設定と地域のリソースとのマッチング
- ⇒ 地域を構成員とした松高応援団（仮称）との協働活動

②キャリアプランニングを踏まえた、 計画的なテーマ設定（1年）

- ⇒ 一人一人に応じたテーマ設定
- ⇒ 生徒の主体性を尊重
- ⇒ 「自分ごと」の研究活動
- ⇒ 教科の学びにつなげる

③新しい授業づくり

- ⇒ 教科横断型（含ICT教育）授業
- ⇒ 地域連携授業
- ⇒ 生徒と教職員の新しい**学びのマインド**
セット
- ⇒ 「まっナビ・プロジェクト」とリンク
する教科の授業実践（**相互補完的**な
授業研究を全教職員で進めていく）

- ⇒ withコロナの下、研究班での「協働」の推進と「学び」を止めない仕掛け
- ⇒ 情報ネットワークのしくみを理解することも含めた幅広い**情報リテラシー**を身に付けさせる
- ⇒ **データサイエンス分野**の活用方法の研究をあらゆる教育活動で進める

④キャリア形成をゴールとした見通し (計画性) を持った研究活動

- ⇒ 「研究」の進め方を常に検証
- ⇒ 「試行錯誤」を恐れない
- ⇒ 総合的な探究の時間や教科指導とのつながりを意識した年間計画の作成 (PJチームで作成中)

⑤コンソーシアムとの協働の一層の推進

⇒ まつうら未来会議やフィールド
ワーク等を通して頑張っている地
域の方々との交流

⇒小・中学校や大学との計画的な交流
と協働活動

⇒「**地域を大切に**する**姿勢**」の育成

【プレまつナビ日誌】生徒派遣授業を行いました

11月4日（金）本校地域科学科の1年生が、松浦市立御厨中学校を訪問しました。訪問目的は、長崎県教育研究会社会科県北大会（公民科）の実施にあたり、御厨中学校との合同授業を行うことです。

今回は11月1日（火）に続く合同学習の2回目で、「まちづくりの提案」をさらに具体化するために、提案の「再構築」を行いました。最初は、緊張も見られましたが、活動内容が具体化していくほど協議に熱が入り、活発な意見交換ができました。



【ポストまつナビ日誌】中学生との交流会に参加しました。

11月2日(水) 14:50~15:40に松浦市立福島中学校を3年生6名が訪問しました。目的は、交流会を通して、松浦高校を知ってもらうことと、高校生活全般について中学3年生が疑問や不安に思っていることを少しでも払拭することです。福島中生4名の班に松高生1名入る形式で実施しました。

参加した松高生6名は昨年度のまつナビの各班の班長です。「高校の勉強は難しいですか」「部活動との両立は大変ですか」などの質問に、熱心に答えていました。



松高自走の3ステップ

R5~まつナビ・プロジェクトを中心とした教育活動の醸成

育成を図る資質能力

- コミュニケーション力
(傾聴・対話・発信)
- 課題発見力、テーマ設定力
- 論理的思考力

R2~R4地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

充実期

自走期

- 生徒と教職員の新しい学びの
マインドセット
- 地域と生徒の
学びのマッチング
体制の構築

導入期

まつナビ（2年生のみ）
のはじまり

研究開発単位Ⅰ

高校3年間を通して地域課題解決型学習を
充実させるカリキュラムの開発

研究開発単位Ⅱ

地域課題解決学習を組織的に支援する体制づくり

松浦高校のまつナビ・プロジェクト
について御感想・御助言・御質問を
宜しくお願いします。

